

保険者紹介 奈良市

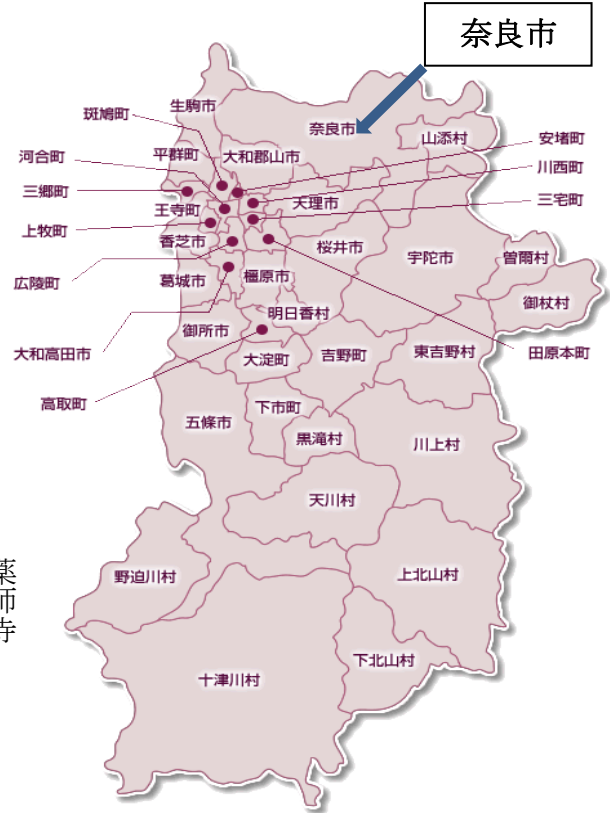
市民が育む世界の古都奈良
～豊かな自然と活力あふれるまち



◇中核都市・奈良市
平成30年の新春号で紹介するのは、奈良県の県庁所在地でもあり、中核都市である奈良市です。

奈良市は、いにしへの奈良のみやこ平城京が置かれていて、平成10年（1998）には、「古都奈良の文化財」としてユネスコの世界遺産に登録されています。世界遺産を構成するのは、奈良市内に所在します

- 東大寺
- 興福寺
- 春日大社
- 元興寺



春日山原始林
平城宮跡
唐招提寺
薬師寺
最近のベストセラー「応仁の乱」（中公新書）には、奈良市内にある興福寺の別当の動きなど、中世でも奈良は大きな存在感のある都市でした。

◇奈良市役所を訪問
「やまとの国保」の取材で、奈良市二条大路南にある奈良市役

所を訪問しました。
奈良市役所は、平城宮跡に隣接し、本館1階ロビーには、大きな奈良時代を再現した平城京の大きな模型が展示されています。



奈良市役所 平城京の模型

◇奈良市の国民健康保険事務
国民健康保険の担当課は、国保年金課で稲垣敏浩課長から、奈良市の国保行政のことを伺いました。

国保年金課は、国民健康保険

務と国民年金事務を所管されていて、前者の事務は、健診係、給付係、賦課係、徴収係の4つの係からなり、23名が在籍されています。後者の事務も併せて、正職員は、27名の課です。



稲垣国保年金課長

奈良市の人口は、平成28年12月に360,542人、平成29年同月で358,919人と多少減少傾向のようです。高齢化率は、平成29年3月現在で29.43%と年ごとに多少上下するが僅かずつ上昇しています。

◇被保険者数の減少

奈良市の平成29年3月末現在

〈平成29年12月現在〉	
面積	276.94km ²
人口	358,919人
世帯数	161,145世帯
高齢化率	29.43%※
国保被保険者数	83,580人
※ 国保加入率	23.24%

の国民健康保険の加入状況は、加入世帯数51,668世帯、被保険者数は83,580人、同加入率23.24%です。被保険者数は3年前の平成26年3月末の90,942人に比べ7,362人の減少、1.83%と僅かに減少しています。少子化により人口がやや減少している影響かと思われます。平成29年3月末現在の前期高齢者数は37,869人、同構成比45.31%です。3年前の平成26年3月末の36,655人、

構成比38.62%に比べ1,214人の増加、6.69%の増加になっています。



奈良市役所 国保年金課

◇国保料の収納率

国民健康保険料の収納状況は、平成25年度から平成28年度までの現年度分の収納率は⑳89.61%、㉑90.48%、㉒91.28%、㉓91.61%と着実に上がっています。平成28年度の現年分の収納額は、75億5千7百万円となっています。

稲垣課長に詳しく伺うと、「国

保料の未収額をいかに減らしていくかが国保制度を堅持していくうえで重要である。地道な努力が必要で、年間10回の督促状、催告書は3回送付している。さらに5名の国保の収納嘱託員が課内におり、直接未納世帯を訪問し、納付相談を受けたり、国保資格証明書についての説明をするなど対応している。」と収納率向上に向けた取組みを語っていただいた。

◇1人あたり医療費

奈良市の1人あたり医療費は、平成26年度334,733円(県平均330,949円)県内順位24位、平成27年度351,306円(県平均348,160円)県内順位26位、平成28年度351,922円(県平均350,564円)県内順位25位である。県平均より少し高い状態です。ハーパーニー、ソバルデイ、オプジーボ等の高額な医薬品が保険適用になり、使用されたことにより、

一時金額が上がったが、薬価が下げられたこと、使用が落ち着いたことよって多少落ち着いた状態ではあるが、いずれにしても、高齢化や医療技術高度化などにより、今後も上がるだろうと懸念しているとのこと。

◇医療費適正化対策

医療費適正化対策として、国保の医療費通知を2か月に1回実施している。医療費通知を送ることによって、10割の金額が表示され、支払った額との差を考えると医療費が高くつくという認識にもなり、金額を抑えようとの心理が働く、また身に覚えがない医療費通知が来たら不審に思いつて連絡があることもあるとのこと。

ジェネリック医薬品の差額通知は年6回実施している。また、重複服薬対象被保険者通知も実施している。三カ月にわたって、3か所以上の医療機関から薬をもらっている人に通知をしている。必要以上の薬は無駄でもあり、

身体にも悪影響を及ぼすとの観点からのようです。

◇奈良市のデータヘルズ計画

高齢化が進む中、「生活の質」を高めることが、大きな課題。「生活の質」の向上のためには、病気を未然に防ぐ「予防」に取り組むことが重要で、「予防」に焦点を当てた健康施策を、よりきめ細かに、効率的に実施できるよう、データを集約・分析した「奈良市データヘルズ計画」が平成28年3月に策定された。「健康寿命の延伸、健康で幸せにくらせる地域社会の実現、生活習慣病の発症・重症化予防、医療費をはじめとした社会保障費の適正化による財政健全化の実現」を目指されています。

◇特定健診について

奈良市の特定健診の状況は、平成28年度で、健診対象者数60,285人で、実施者数17,727人、受診率は29・4%で県平

均の31・2%より低い状況である。このため、奈良市では、未受診者（45歳〜64歳）に対して受診勧奨ハガキを送付したり、「しみんだより」に特定健診受診勧奨記事を、7月、11月、1月に掲載したり、市の広報モニターで情報を放映したりと啓発に努められています。特定健診の検査内容も、貧血・心電図・尿酸・随時血糖・eGFR・クレアチニンを追加項目として実施されています。

特定健診後の特定保健指導は、「はつらつ保健師」で紹介する奈良市保健所の健康増進課が担当しているとのことです。

◇フレッシュな職員

奈良市国保年金課のフレッシュな職員を紹介しましょう。下の写真の左から賦課係の伊藤芹香さん、徴収係の松下朋加

さん、給付係の土屋実穂さんのお三方です。



伊藤さんは、課に着任してから2年目で、保険料を計算して被保険者に通知することを担当されています。被保険者の方からの保険料に関する問い合わせに対し、納付方法を提案するなど、丁寧に対応したことで喜んでもらえた

ことが本当によろしいと語って
いました。

松下さんは、課に新採として着
任してから1年目で、世帯主の変
更、社会保険への異動などで発生
する保険料の還付金の返還業務
を担当されています。市役所職員
になって、仕事について学ぶこと
が多いとのこと。

土屋さんは、課に着任して1年
目で、医療機関で10割支払われ
た被保険者に、保険適用で7割返
還するなど、集めた保険料を療養
費として給付することを担当し
ているとのこと。

3人とも、国民健康保険制度が、
国民皆保険制度の最後の砦であ
ることを理解し、市民の生活に役
立っている仕事をしていること
にやりがいを感じると爽やかに
語っていただいた。

◇春日若宮おん祭

奈良市に取材に行った翌々日
12月17日は、平安時代の保延2
年（1136）から欠かさず続い

ていて、今回で882回目に当た
る、日本で最も歴史と由緒ある祭
りの一つ、「春日若宮おん祭」の
お渡り式が行われ、参加者千名の
美々しく着飾った時代行列があ
った。奈良では「祭り」という普
通名詞が固有名詞になっていま
す。

奈良の冬は、祭りが多い。この
おん祭に続いて、年が変われば、
若草山山焼き行事、奈良大立山ま
つり、節分万燈籠、東大寺お水取
りと続く。東大寺のお水取りが3
月14日に終われば、奈良に春が
来る。
（文責 米田憲司）



おん祭で、馬上の仲川奈良市長

